

平成 29 年 2 月 21 日
J A グループ 京都

株式会社京山への中国産米にかかる調査の中間報告について【第 5 弾】

J A 京都中央会は、(株)京山からの依頼に基づき、平成 29 年 2 月 16 日(木)より立ち入り調査を実施しております。

本日は、監査士 12 名、事務スタッフ 34 名の合計 46 名で調査を実施いたしました。

雑誌に記載のあった新潟産こしひかり、魚沼産こしひかり、京都丹後こしひかり、滋賀こしひかりについては、先行して仕入、売上を確認しています。

今後は、他の品目全てについて仕入と販売の実態の調査に入ります。

また、S B S 輸入米における中国産の輸入量実績を調べたところ、農林水産省のホームページによると下表のとおりで、S B S 米における中国産の「精米短粒種」および「玄米短粒種」は 2 0 1 2 年と 2 0 1 6 年にのみ輸入されております。

(株)京山が 2 0 1 2 年に仕入れた中国産米は全て「中国産米」として販売されており、在庫はありませんでした。

2 0 1 6 年 1 2 月 1 6 日に輸入された中国産米は、大半を落札した業者が、最短で 2 0 1 7 年 2 月 2 3 日に受け入れることとなっております。

よって、現在中国産の短粒種が混入することはありません。

なお、現在中国政府に対し、「日本へ輸出した短粒種はあるか」問い合わせを行っております。

加えて、安定同位体比分析による中国産米と日本産米の産地判別の困難性についての記述がある書籍がありましたので、その内容を公開いたします。

当グループにおきましては、引き続き調査の進捗状況など随時アップして参りますのでよろしくお願いいたします。

以上

調査を実施した監査士名簿

(平成29年2月21日)

所 属	監査士氏名
J A 京都代表監事	王子 清造
J A 京都中央会代表監事	大槻 松平
J A 京都中央会	藤本 伸幸
〃	黒川 眞也
〃	山下 義昭
〃	野間 由幸
〃	村上 友一
〃	中村 秀志
〃	中川 滋
〃	佐々木光希
〃	森川 大輔
〃	植野 智仁

※その他事務スタッフ34名

SBS輸入米における中国産輸入量実績(農林水産省ホームページ「輸入米に係るSBSの結果概要」より作成)

(単位:トン)

年度	和暦	回	入札日	精米短粒種	精米中粒種	玄米短粒種	玄米中粒種	合計
2012	24	第1回	H24.9.25	12,016			40	12,056
2012	24	第2回	H24.11.6	2,800				2,800
2012	24	第3回	H24.12.18	11,824				11,824
2012	24	第4回	H25.2.20	960				960
24年度合計				27,600	0	0	40	27,640
2013	25	第1回	H25.9.25				94	94
2013	25	第2回	H25.10.22				40	40
2013	25	第4回	H26.1.15				40	40
25年度合計				0	0	0	174	174
2014	26	第4回	H26.12.18				40	40
2014	26	第5回	H27.1.14				40	40
26年度合計				0	0	0	80	80
2015	27	第3回	H27.11.18				40	40
2015	27	第6回	H28.1.29		36			36
27年度合計				0	36	0	40	76
2016	28	第1回	H28.9.7				36	36
2016	28	第2回	H28.12.16	500		100		600
2016	28	第3回	H29.1.11	240		600		840
2016	28	第4回	H29.1.25	240		100		340
2016	28	第5回	H29.2.8	100				100
28年度合計				1,080	0	800	36	1,916

安定同位体比分析による農産物の産地判別について

東京電機大学出版局発刊の『食品表示を裏づける分析技術—科学の目で偽装を見破る—』によると、豪州産、米国産、中国産、台湾産および日本産の5つの米のC・O同位体比を分析すれば、豪州産および米国産は日本産と明らかに違う一方、中国産、台湾産は日本産に大変よく似ている、と記述されている。

したがって、安定同位体比分析のみで日本産と中国産の米の産地を判別することは非常に難しいといわれております。

概 略

生物の体を構成する基本元素には炭素(C)、窒素(N)、水素(H)および酸素(O)があります。これらの元素には、各々質量数が異なる同位体 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 、 $^{15}\text{N}/^{14}\text{N}$ 、 $^2\text{H}/^1\text{H}$ 、 $^{18}\text{O}/^{16}\text{O}$) が存在しています。

これらの同位体は自然界では各元素で一定の割合で存在し、その比は安定同位体比と呼ばれています。しかし、生物の体の中の安定同位体比は、その生物が育った環境や摂取した食物の安定同位体比を反映して僅かに変化し、同一生物でも生育環境を反映した値を示します。

そこで、食品については、安定同位体比を、その生物が生息した環境を判別するための指標として用い、産地情報判別や原材料判別などに応用しています。